



# アスンシオン通信

シーズン2【最終号】

日付: 2026年3月12日 no.45

発行者: 田邊紘起

Hola a todos! Como están?

年度末になったので、この1年間のまとめをします。日々のスペイン語学習のおかげで、ふだんの生活の中で言葉に困ることはほとんどなくなったように思います。そんな中で改めて感じたことをまとめます。

## 〈パラグアイの人々の国民性〉

パラグアイの人たちの印象を一言で言うと「おっとりしていてフレンドリーで正義感が強い」という感じです。そして、みんないつも笑顔なので「なんて心やさしくて友好的な国なんだ。」と感じています。外国人の私を差別することなく、前からの友達のように接してくれ、言葉が通じない時はカタコトの英語やスマートフォンのアプリを使って、何とか言いたいことを伝えようと努力してくれました。私の周りの人はみんな親切で、この2年間安心して過ごすことができました。

パラグアイで生活をするうちに現地の言葉を覚え、現地の人に現地の言葉で自分の気持ちを伝えられるようになった時は感動しました。今頃はスマートフォンの翻訳アプリというのがありますが、機械を通しての間接的な会話では、どうしても見えない壁ができる感じがします。それに、直接会話をする時と比べると全然表情が違います。日本でも外国人が日本語で話してきたら「おっ、すごいじゃん！」と何だか嬉しい気持ちになりますよね。デジタル機器が発達して便利な時代になっても、相手の表情や反応を見ながら自分のもっている知識や技術で何とかコミュニケーションをとろうとすることは、人同士のコミュニケーションにとっても大切なことだと思いました。

パラグアイの人たちは、目の前の相手とのコミュニケーションをととても大切にしている人たちだと思います。会話する時の相手との距離感が日本人のそれより近いように感じます。ルールやマナーよりも、目の前の相手を最優先に考えて行動している印象です。一つ例を挙げると、車用の信号が青、歩行者用の信号が赤で、車がたくさん走っている道路の端に一人の歩行者が立ち止まりました。すると、走ってきた車が青信号なのに停車し、対向車にも停車の合図をだして歩行者を横断させました。後続の車は「青信号なのに」と抗議のクラクションを鳴らしまくっていましたが、運転手は気にする様子もなく、笑顔で歩行者を横断させていました。それを見て、「今は青信号で車が通る時なのに、赤信号で横断させて、みんなに迷惑だろ！」と私は思いました。これは日本の常識で考えている私には大きな驚きで、今までの当たり前が当たり前でなくなった瞬間でした。でも今は、パラグアイのそんなやさしい人々が素敵だなと思うようになりました。やさしすぎて自分勝手な行動になり、それでトラブルになることも多いのですが…それもふくめて素敵だと思います。

### 〈気候〉

季節は日本の逆なので、7月は冬、1月は夏です。冬といっても、上着がいるような寒い日は数えるほどしかないなので、ほとん

ど夏みたいなものです。寒いのが苦手な私にはとてもありがたい気候でした。真夏には40度を超える日もありますが、空気がカラッとしているので、日陰にいて少し風が吹いていたら、エアコンがなくても涼しく感じます。また、雪が降らないので、冬用のタイヤに交換したり、雪道を運転したりすることがないのは楽でした。ただ雨の時は大変で、雨が降る時は嵐のようになり、大量の雨と大きな木でも倒すような強い風が吹くので、そんな時は車の運転は危険すぎてできません。

それから、一年中暖かいので南国のフルーツがいつでも収穫できるため、バナナが驚くほど安いです。

### 〈食べ物〉

日本人もきっとハマる「チパ」というずっしり重たいチーズパンをはじめ、クセのないパラグアイ料理、大きなブロック肉の塊に支えられた食生活です。また、日系人がたくさん住んでいるので、お米や味噌、日本人好みのいろんな野菜を手に入れることができました。おかげで、我が家では日本とほとんど変わらない食事を作ったり食べたりすることができました。パラグアイ料理の調味料は塩だけとか、基本的にシンプルな味付けでよいのですが、日本食なら当然ある「コク」や「うまみ」がほとんどないので、「う～ん、コクがない！」と日本では感じたことがない感覚

を何度も経験しました。日本人は「コクやうまみ」に慣れすぎていと痛感しました。毎日口にする食べ物は健康の源なので、これが安定していたおかげで体調を崩すこともなく過ごすことができたと思います。

### 〈パラグアイで生活してわかった日本の「当たり前」〉

日本から出て海外で生活してみて、日本のお店の丁寧なサービス、時間通りに動くバスや電車、ルールやマナー、規律を守りながら、まわりに迷惑をかけないように行動している日本人の心遣い、これらは世界では当たり前じゃない「日本の誇り」だと思いました。そして、外国に比べれば、日本はまだまだ平和で安全な国（一部危険もありますが）だと感じました。南米では子供だけや女性ひとりだけで外を歩くと危険な感じがしますから。

今回、日本を離れて生活したことで、逆に日本の素晴らしさを思い知りました。世界はとっても広くて、そして繋がっています。どんな国の人でも、相手を受け入れ、認めることでお互い幸せに暮らせることを学びました。どこに住んでいても、どんな文化をもっている、みんな「同じ人間」です。大切なのは、自分から歩み寄ること。それが世界の平和につながると感じました。



スマホでゲームをして遊ぶパラグアイの子ども達。子どもの笑顔は世界共通



道路脇でレモンとポメロ（みかんの仲間）を売っていたお兄さんとパシャリ。みんなとってもフレンドリー！=自宅付近の路上

二年間の貴重な体験により、私のものの見方はかなり変化しました。これまで「当たり前」だと思っていたことは、実は日本の教育によって身につけてもらった力だということがわかったので、今後はそれをしっかり感謝して過ごしたいと思います。

## タイトル写真について

「パラグアイ料理屋の鉄板に肉を盛り付けた『パリージャ』」

骨付き肉や牛タン、サーロイン等の肉がドーンと豪快に出されます。味付けは塩のみですが柔らかくて絶品です。添えてあるのは「マンディオカ」というイモを蒸したもので、なかなか重量感があってずっしりしていますが、意外とあっさりした味で、食べ慣れるとやみつきになります。

今年度も読み続けてくださった皆様ありがとうございました。

Muchísimas gracias por seguir leyendo mis artículos!

それではまた ! Hasta luego! Adiós!

**【次は日本でお会いしましょう！】**